

「産学連携オープンセミナー in 京都」の研究発表で最優秀賞を受賞 ～ 奈良県立大学地域創造学部～

2013年9月4日に「産学連携オープンセミナー in 京都」（主催：（公社）日本観光振興協会）が行われました。このセミナーは同協会が、観光産業に関する講演や研究発表を通じて、これからの観光について考えることを呼びかけ、東京や福岡・仙台などの各ブロックで開催されています。今回、京都ブロックで2回目となるセミナーが開催されました。

セミナーは3部構成で、第1部「学生による観光振興に関する研究発表」、第2部パネルディスカッション「京都が牽引する観光立国・日本」、第3部研究発表の表彰と総評という内容で行われました。本稿では、第1部において最優秀賞を受賞した奈良県立大学の活動について掲載します。

1. 学生による観光振興に関する研究発表

第1部の研究発表には以下の6校が参加し、奈良県立大学地域創造学部が最優秀賞に選ばれました。

研究テーマ	大 学
おこしやす 3000 万人 ～需要最適化による観光立国実現に向けて～	京都大学大学院 経営管理研究部
歴史のまちをキャラと遊ぶ ～アニメ等コンテンツを活用した地域振興を目指して～	成美大学 経営情報学部
「脱観光地型」観光の提案 ～嵯峨嵐山における鉄道・訪日観光・人的ネットワークを中心に～	同志社大学 総合政策科学研究科
着地型観光と歴史ガイドツアー ～あすか歴史探検隊～	奈良県立大学 地域創造学部
観光資源としての食品サンプル ～岐阜県郡上八幡市における事例を中心に～	平安女学院大学 国際観光学部
“笑都”大阪の復権をめざして ～関西演芸推進協議会の取り組みを中心に～	和歌山大学 観光学部

2. 「着地型観光と歴史ガイドツアー」

奈良県立大学の発表は、地域創造学部「麻生専門ゼミ（麻生憲一教授）3・4年生」によって構成される「あすか歴史探検隊」の活動内容について行われました。

◆あすか歴史探検隊の概要

目的：明日香村の歴史的遺産（地域の宝）の魅力や歴史的面白さを、学生と来訪者（修学旅行生や外国人観光客）が歴史探検隊員となって、一緒に掘り起し、見つけ出していくための歴史ガイドツアー。探検のわくわく感やドキドキ感を参加者みんなで体感していくこと。

開始：2011年4月

活動内容：学生による有料歴史ガイドツアー

活動場所：奈良県明日香村

対象：明日香村を訪れる修学旅行生・インバウンド（外国人観光客）

なお、ガイドツアーに参加した人には、終了後「あすか歴史探検隊」の隊員認定書が手渡されます。

◆あすか歴史探検隊の活動経過

・2011年4月に麻生専門ゼミ生22名により探検隊を結成。明日香ニューツーリズム協議会（明日香村商工会や観光開発公社など4者で構成される団体）から、教授に対して協議会活動への協力依頼があり、探検隊が同協議会と共に「*1

着地型観光」に取り組むこととなりました。

(* 1 : 観光客や旅行者を受け入れる地域が、自分たちの持つ観光資源を生かしてツアーなどを企画すること)

- 同協議会が行う「*2民家ステイ」実施に向けて、探検隊がモニターとして宿泊し、受け入れ態勢の課題や改善点について、農家と共に協議を重ねたところ、農家の不安も払しょくされていきました。

(* 2 : 自然と遺跡に囲まれた環境で田舎生活を体験し、明日香に住む人たちと交流を深め、古代の息吹を体感すること)

- 2011年以降探検隊が実施した「歴史ガイドツアー」は好評で、中高生だけでなく、旅行会社の教育旅行(修学旅行)担当者にも歴史学習に関するグループワークを実施しました。



中高生にも楽しみながら学べるように、クイズ形式で「歴史ガイドツアー」を実施

- 国内だけでなく、シンガポール・マレーシアの中学生やニューヨーク商工会議所会員を迎え入れ、同協議会と共に「*3インバウンド交流事業」として、飛鳥の歴史や文化を紹介する体験交流型プログラムを実施しました。

(* 3 : 海外から日本へ来る観光客への接客やガイド等のサービス)



インバウンド交流事業



3. あすか歴史探検隊の事業成果

セミナーで発表を行った4年生の井上美智さんは、「学生自身のコミュニケーション能力の向上や、様々な企画・運営能力の質的向上が図れたこと。また、協力して事業をやり遂げる責任感も醸成されたことがとてもよかった」と語ってくれました。

一方、地元の明日香ツーリズム協議会からは、「地域の人々が若者目線の新たな構想を得られたことで、若者との協働意識が芽生え、地域への郷土愛も醸成された」、また、ガイドツアーの参加者からは「若者との交流によって、楽しい思い出づくりができたことや、若者企画の目新しさに満足を感じた」など「若者参画」を評価する声が聞かれました。

4. 最優秀賞受賞の要因と今後の活動

今回の最優秀賞の受賞について、主催者からの総評では、「地域住民との協働によって、着地型観光の企画・運営を継続的に実施している」ことが評価されたということです。

麻生憲一教授は今後の活動として、「地元の『明日香ニューツーリズム協議会』とさらに協力関係を深く結び、『明日香村を世界に誇れる村にする』という共通の目的意識を持って、今後明日香村で開催される諸行事にも積極的に取り組んでいく」と話されていました。

一方、井上さんも「後輩への事業の引き継ぎについて、歴史ガイドのレベルを低下させることなく連綿と続けていくシステムの構築や、他の大学との連携も含めた、奈良県全体での運営組織を立ち上げたい」と前向きな話を聞かせてくれました。

県内の大学が地域住民と共に「民家ステイ」に取組み多くの実績を積み上げ、さらには新しいイベントにも参画して、更なる魅力の創造にも取り組んで行こうとしています。若い人の力と地域の力の相乗効果に期待が膨らみます。(奥 桂子)